

スマホ落伍者の懊悩（なんて大袈裟かな？）

とうとう自分も！

昨年の12月、自分もとうとうスマホを買う結果となった。ガラケーとパソコンがあれば大丈夫だからといった思いで、スマホに引きずられている若者たちを批判的な目で見ると言うコラムを書いたこともあったが、状況が変わってきたのです。

「QRコード」だ「スマホ決済だ」と時代は確実にそちらの方へ流れている。その流れから落ちこぼれてはいけない、なんて思いに駆られて。年金生活者には料金も高く、難しくて使いこなせない不安もあったが・・・

直接の動機は、本年1月にパナマを訪問の際、重いカメラでなくてもスマホによる写真が素晴らしく精度が良くなっていること、また国際電話をできること、さらに1年後のオリンピックのボランティア活動には必ず必要になってくるだろうから、という理由からだった。

機種は「らくらくスマートフォンme」。高齢者にも扱い方が易しい、といったふれ込み。そんなPRに誘われて求めたものの初心者にはやはり結構難しい。買ったものの週に数回の電話交信くらいだけで他の機能はほとんど使ったことがない。大体、そんなに使うような用事はないし、調べ物はもっと画面が大きくて見やすいパソコンでやればよいのだから。それでも自分一人で月額5000円を超えている。ガラケーの時は妻と二人で3000円以内だったのに。

もうガラケーには戻れない！

そこで「ガラケーに戻ることも考えたいんだけど」とドコモショップのスタッフに聞いてみた。と、「もうガラケーの生産は無くなりました」となんとも冷酷な宣告！

こんなにもスマホが社会を席卷した時代に逆行するような発言は、天邪鬼か日進月歩のハイテクについていけない年寄りのひがみかもしれません。



ホームまた電車内でスマホを操作する人の多いこと。車内の7人掛けの椅子に座った乗客が一斉に、という異様な光景も珍しくありません。周囲にまったく関心を寄せずその世界に浸っている。

何もしない当方は取り残されているような感じで、「ポケっと生きているんじゃねえよ！」といった声がどこから飛んでくるくるような気さえもしてくる。

電車内でみんなが覗いているスマホ。あるとき気になってスマホに詳しい友人に聞いてみた。「みんな何を見ているんだろうね？」。すると友人は「たいしたことはないよ。調べ物をしている人もいるけど大部分がゲームだろうね」と。

実は自分はガラケーも使いきれていなかった。電話による交信のみでメールはできなかった。パソコンでは10本の指で文字を打つのに携帯では1本か2本。「そんな不能率なことできるかい！」なんて意固地な性格が災いして今を招いてしまった。

それに器械自体が重く、内ポケットに入れると重さで垂れ下がるようになるので、め

ったに携帯することはなく、どこかでの待ち合わせとか、こちらから発信が必要な時だけ携帯するようにしていたのです（身勝手に関係の皆さまには申し訳ありません）。

ハムレットの独白

ふだん携帯していないもう一つの理由は、外からいつでも勝手に“こちらの世界”に踏み入ってきてもらいたくない、との思いがあるからです。この齢をして緊急に何かをしなければならない、ということは殆どないでしょう。

必要な用件があれば自宅の固定電話の留守録に残していただければ帰宅した時点で対応できる。外出したときは周囲の景色の移り変わりを楽しみ、ただぼんやりと歩いているだけでも心の休息となる。デジタルの奔流に溺れかかる時代に“手ぶら”“身軽”の爽快さは貴重です。

確かに、なんでも情報を入手できるスマホは便利この上ないでしょう。でもいつも下を向いてスマホをいじっている若者たちに訴えたい。

「人と話す、本を読む、物思いにふける、という時間と空間がなくなっていますよ。主体性がなくなりスマホに引き摺り回されているようにも見えますよ！」



——なんて偉そうなことを言いながら、一方では最先端の便利器具を使いこなせないいらだちと、自在に指を動かす若者に羨望の想いも抱く昨今なのです。

「スマホなんか無くても生きてみせる！」と啖呵をきっている高齢な女性作家の言葉も刺激的ですが、そこまで割り切れない自分は迷える羊なののでしょうか。

再びドン・キホーテではなくハムレットの独白です。

「スマホ？持つべきか、持たざるべきか、それが問題だ！」